

# しんかんせんが、うらやましい

梨田 元氣

「しんかんせんが、うらやましいなあ」

ぼくは、ふつうのでんしゃだよ。

ちいさなまちで、まいにち、はしっている。

「しんかんせんって、かっこいい。ビューンと、はしって、とおくのまちにもいけるんだ」

それにくらべて、ぼくなんか、ゴットンゴットン、のろのろと、せまいまちのえきを、

いったりきたりの、くりかえし。

「なんだか、つまらないや」

ぼくは、げんきをなくしちやった。

そして、あるひのこと、ぼくは、はしっているとちゆうで、プシューと、おおきなおとをさせて、とまってしまった。

「たいへんだ、でんしゃが、こしようした」

うんでんしゅのおじさんは、びっくり。

ぼくは、でんしゃの、しゅうりこうじょうに、はこばれた。

「わっ、あれは！」

しゅうりこうじょうに、きいろのしんかんせんがいる。

「ドクターイエローさんだ。すごいなあ」

ドクターイエローさんは、せんのようすなどをしらべて、みんながあんぜんに、しんかんせんにのれるように、はたらいっている。

「こ、こんにちは。ドクターイエローさん」

ぼくは、きんちようして、あいさつした。

「はい、こんにちは」

ドクターイエローさんは、にっこりほほえんで、ぼくにこたえてくれた。

「なぜ、ここに、こられたのですか？」

「てんけんのためだよ。にんげんが、びょういんで、いろいろと、みてもらうようなものさ。おかげさまで、どこもわるくなかったよ」

「おげんきで、なによりです」

「ところで、きみは、どうしたのかな？」

ぼくは、おもいきって、「しんかんせんが、うらやましいです！」って、いってみた。

すると、ドクターイエローさんは、やさしいこえで、ぼくにいった。

「わたしは、きみが、うらやましいよ」

「えっ、どうしてですか？」

「きみは、まいにち、たくさんのおきやくさんをのせて、はしることができる。わたしは、おきやくさんをのせることは、できないよ」

「それに、わたしたちしんかんせんは、せんのそばにさく、きれいなおはなをながめながら、のんびりはしることも、ゆるされない」

「わたしたちは、『たまには、ふつうのでんしゃのように、ゆっくりはしってみたいなあ』って、いつも、はなしているよ」

「そうだったのですか。ぼく、ぜんぜんしりませんでした」

ぼくは、じぶんが、はずかしくなった。

「だから、きみは、わたしたちのあこがれさ」

ぼくは、げんきいっぱいでおれいをいった。

「ドクターイエローさん、ありがとう！」

「ぼく、もう、だいじょうぶです」

きょうも、ぼくは、ちいさなまちで、ゴットンゴットン、のろのろと、はしっている。たいせつな、おきやくさんをのせて。